

第130号

2021.5 発行

# 総研大 NEWSLETTER



## トピックス

- ◆ 令和2年度春季学位記授与式
- ◆ 第6回 SOKENDAI 賞の表彰
- ◆ 令和3年度春季入学式
- ◆ フレッシュマンコース令和2年度後学期と令和3年度前学期分をオンラインで実施
- ◆ 日本文学研究専攻 大友一雄教授と山下則子教授による最終講義
- ◆ 国立民族学博物館 デジタル触地図「2020年度グッドデザイン賞」を受賞
- ◆ 天文科学専攻 総研大アジア冬の学校開催
- ◆ 天文科学専攻 2020年度スプリングスクール報告

---

## 受賞情報

---

## プレスリリース情報

---

## 研究助成学生の研究紹介

---

## メディア等出演・掲載情報

---

## イベント情報

---

3/24

## 令和2年度春季学位記授与式

2021年3月24日(水)、葉山キャンパス講堂にてリモートによる春季学位記授与式が挙行されました。

コロナウイルス感染症の拡大に伴い、昨年度の春、秋の学位記授与式及び入学式は全て中止でしたが、今回は葉山キャンパス講堂からライブ配信しました。

式典では、修了生を代表して、葉山キャンパスより参加した生命共生体進化学専攻の修了生2名に、学長より学位記が授与されました。その後、学長からの式辞及び修了生代表からの謝辞が述べられ、課程博士47名、論文博士3名が総研大での博士号を手し、将来への新たな一歩を踏み出しました。



記念写真

■学長式辞については、本学ウェブページ

<https://www.soken.ac.jp/news/6973/>



【広報社会連携係】

3/24

## 第6回 SOKENDAI 賞の表彰

2021年3月24日(水)、学位記授与式に引き続き、第6回 SOKENDAI 賞受賞者4名の表彰が、オンラインにて挙行されました。受賞者のコメントは以下に掲載されています。

<https://www.soken.ac.jp/news/6968/>



※ SOKENDAI 賞は、本学の理念と目的に照らし、特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめて課程を修了し、学位を取得した修了生を表彰する賞として平成30年度に創設されました。

### 第6回 SOKENDAI 賞受賞者

氏名	所属(申請時)	学位論文題目
間瀬 久美子	文化科学研究科 日本歴史研究専攻	近世朝廷の権威と神社・民衆

川又 基人	複合科学研究科 極域科学専攻	東南極リュツォ・ホルム湾宗谷海岸南部地域における 最終氷期最盛期以降の氷床融解過程の復元
大熊 直生	生命科学研究科 基礎生物学専攻	ミヤコグサにおける根粒共生の地上部を介した制御機 構に関する研究
佐藤 正都	先導科学研究科 生命共生体進化学専攻	Evolution of symbiotic systems in extreme and heterogeneous environments



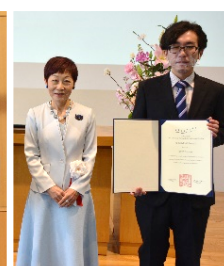
(左) 間瀬さん  
(右) 福岡万里子主査



(左) 土井指導教員  
(中央) 川又さん  
(右) 門倉専攻長



(左) 大熊さん  
(右) 川口指導教員



(左) 長谷川学長  
(右) 佐藤さん

【広報社会連携係】



## 令和3年度春季入学式

2021年4月6日(火)、令和3年度春季入学式を葉山キャンパス講堂よりオンラインで実施しました。新入生88名が基盤機関や自宅から参加しました。入学許可者一人ひとりのお名前を読み上げ歓迎しました。

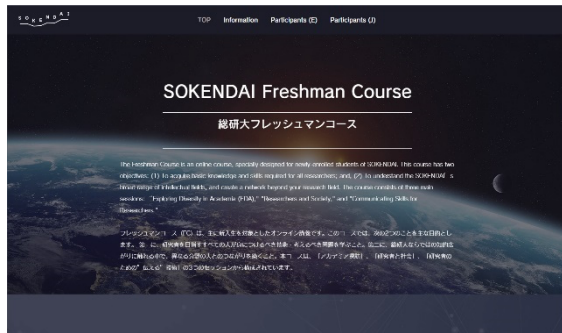
■学長式辞は本学ウェブページ  
<https://www.soken.ac.jp/news/6992/>



【広報社会連携係】



## フレッシュマンコース令和2年度後学期と令和3年度前学期分をオンラインで実施



総研大フレッシュマンコーストップ画面

教育開発センターでは、主に新入生を対象としたフレッシュマンコースを全学に開いて開催しています。このコースでは、次の2つのことを主な目的とします。

第一に、研究者を目指すすべての人が身につけるべき技術・考えるべき問題を学ぶこと。第二に、総研大ならではの知的広がりに触れる中で、異なる分野の人とのつながりを築くこと。本コースは、「ア

カデミア探訪」、「研究者と社会」、「研究者のための”伝える”技術」の3つのセッションから構成されています。

この度、令和3年3月30日～4月2日に令和2年度後学期分、令和3年4月6日～4月9日に令和3年度前学期分のフレッシュマンコースが実施されました。新型コロナ禍以前は、葉山キャンパスにて合宿形式で開催していましたが、前回からオンラインに切り替えて開講しています。学生の履修登録者数は、英語開催の後学期分が30名、日本語開催の前学期分が68名となりました。

参加者のアンケートによると、フレッシュマンコース全体としては、受講して良かったと答えている方が、8割を超える結果となっていました。また、今後対面で集まる機会があれば参加してみたいと回答した方は、8割を超えており、直接集まりたいという希望が強かったようです。是非今回学んだ事を、今後の研究生活に生かしていってもらえればと思います。  
【教育開発センター】



## 日本文学研究専攻 大友一雄教授と山下則子教授による最終講義 令和2年度特別講義をオンラインで開催

2021年3月16日(火)、令和2年度特別講義をオンラインで開催しました。講師を務めた日本文学研究専攻の大友一雄教授と山下則子教授は、3月で定年退職を迎え、今回が最終講義となりました。大友教授は「バチカン図書館所蔵マリオ・マレガ資料群の構造とデータベース構築」のテーマで、2011年にローマ教皇庁バチカン図書館で発見されたキリシタン禁制に関する歴史的史料の調査と研究のため発足した「マレガ・プロジェクト」の歩みを解説。調査体制の構築から、資料の現状記録、修復、資料のデジタル画像化の各過程を多くの資料写真や国内外での研究の様子を記録した写真とともに紹介しました。聴講者は、バチカン図書館と人間文化研究機構をはじめ、国内外の研究者が参加する壮大なプロジェクトの全貌に聞き入っていました。



特別講義での記念撮影（一部抜粋）

画面上段左：山下則子教授、画面上段右：大友一雄教授

続いて「鶴屋南北作歌舞伎と『今古奇観』—『お染久松色読販(おそめひさまつうきなのよみうり)』の騙る女—」をテーマに講義を行った山下教授は、文化10(1813)年初演の鶴屋南北作歌舞伎『お染久松色読販(おそめひさまつうきなのよみうり)』を



取り上げ、中国白話小説『今古奇観』から影響を受けている、女方(おんながた)が騙りをする部分に着目し、『今古奇観』が利用された背景について、平賀源内や森島中良と南北や歌舞伎役者尾上松助との交流が影響を与えた可能性について多くの画像を用いて論証されました。冒頭には歌舞伎の歴史についての解説もあり、聴講者からは当時の人物交流や歌舞伎における女方の演技の特徴についての質問が寄せられ、興味深そうに聞き入る様子が見られました。

講義終了後、大友教授は「資料をじっくり見て研究すること、腰を据えた研究が期待されるのではな

いか」と研究生活を振り返り、山下教授は「若いころの苦勞は、50歳以上の人生に備えるための財産」「研究がうまく進まないときは、運動して心を穏やかに整えて下さい」と語りかけるなど、両教授から院生たちへ激励の言葉が贈られました。

今回は館内外や海外からも希望があり、60名以上の方に聴講いただきました。大友教授と山下教授から研究指導を受けた修了生も数多く聴講し、画面越しではありましたが、久しぶりに顔を合わせ、和やかな雰囲気にもまれ、両先生の最終講義を終えることができました。

【日本文学研究専攻】



## 国立民族学博物館 デジタル触地図（国立民族学博物館触知案内板） 「2020年度グッドデザイン賞」を受賞

国立民族学博物館のデジタル触地図（国立民族学博物館触知案内板）が、このたび2020年度グッドデザイン賞(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。優れたデザインアプローチの中心にあるのは人々を理解するための丁寧な調査であり、このデザインでは視覚障害を持つ人々への共感から、触覚によるコミュニケーションを通じた道順検索システム開発となっています。デザイナーは最初の構想で、スマートで魅力的なインクルーシブ社会を実現するソリューションの開発というビジョンを明確にしたとして評価されました。

デジタル触地図は、視覚に障がいのある人となない人が、分け隔てなく館内情報にアクセスできるインタラクティブな触地図システムです。タッチパネルディスプレイ上に設置したフィンガーガイドと音声案内との連動によって、館内の位置情報や展示案内を触覚と聴覚から得ることができます。フィンガーガイドは、今回新たに開発された、なぞりながら触る行為を促す新しいインターフェイスデザインです。

このデジタル触地図は、国立民族学博物館、九州大学、山口大学との共同プロジェクトとして開発されました。



デジタル触地図（国立民族学博物館触知案内板）  
（左上は案内板一部拡大）

### ■詳細情報

[https://www.minpaku.ac.jp/wp-content/uploads/20201001\\_01.pdf](https://www.minpaku.ac.jp/wp-content/uploads/20201001_01.pdf)



### ■その他受賞情報：

- 2020/12/18 IAUD 国際デザイン賞 2020 銀賞  
(公共空間デザイン部門)

<https://www.iaud.net/award/>

- 2021年3月15日(月)

UNIVERSAL DESIGN competition 2021

UNIVERSAL DESIGN expert 2021 (専門家賞)

UNIVERSAL DESIGN consumer 2021 (消費者賞)

<https://www.universal-design.org/>

【国立民族学博物館 研究協力係】

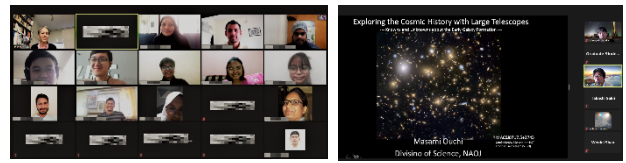


## 天文科学専攻 総研大アジア冬の学校開催

2021年2月3日～5日の3日間、総研大物理科学研究科天文科学専攻主催による、総研大/国立天文台アジア冬の学校をオンラインで開催しました。

冒頭の関井副専攻長による総研大及び専攻の紹介に続き、7名の専攻教員による天文学の各分野（銀河、恒星、星形成、アストロケミストリー、重力波、超新星）及び装置開発に関する最先端の内容を扱う集中講義が行われました。

また、初日には、参加者の興味のある分野ごとに分かれたブレイクアウトセッションが実施され、受講生同士で活発な意見交換がなされた他、ファシリテーター役の教員にも多くの質問が寄せられ、白熱したセッションとなりました。



講義風景

今年にはコロナ禍にあって、「アジア冬の学校」初のオンライン開催でしたが、中国、インド、インドネシア、フィリピン、ベトナムなど、アジアの16か国から325名の申込があり、このうち235名の受講者が、受講しました。講義の後に設けられた質疑応答の時間には、時間内には回答しきれないほど多くの質問が寄せられるなど、受講生の天文学への熱意に圧倒された3日間でした。

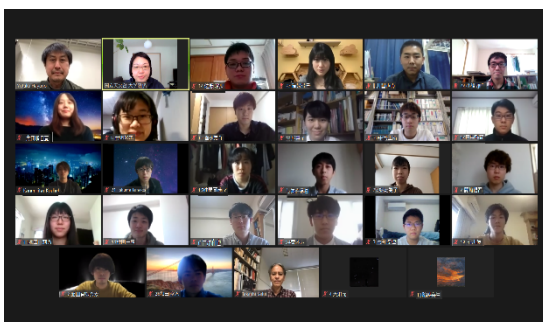
【天文科学専攻】



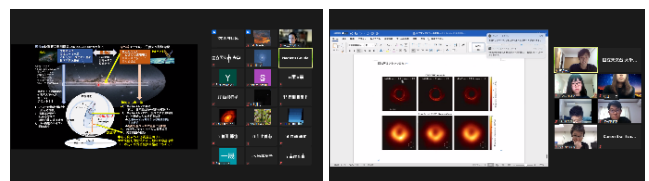
## 天文科学専攻 2020年度スプリングスクール報告

国立天文台・総研大天文学専攻スプリングスクールプログラムが2021年3月8日（月）～3月10日（水）に開催されました。本プログラムは、大学理工系学部3年または2年に在学する天文学研究に強い意欲を持つ学生を対象とし、装置開発を含む最先端の天文学の基礎を学ぶことを目的としています。昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から残念ながらスクールを中止としましたが、今年は、引き続き参加希望者が多いことから、オンラインでスクールを開催することにいたしました。今年は、光赤外線天文学、電波天文学、太陽物理学、重力波天文学、理論天文学、装置開発の各分野から合計9

名の教員が集中講義を行い、日本全国から合計27名の学部学生の参加がありました。講義では、星惑星系の形成進化、太陽・恒星、星間化学、天の川銀河、銀河と宇宙の進化、重力波、ブラックホール・活動銀河核、観測装置の仕組み、など、普段の大学の講義ではあまり触れない内容を学ぶことができました。また、集中講義の他、参加者同士の交流を深めるための「体験学習」をオンラインで実施しました。この「体験学習」は、太陽から遠方宇宙までの様々なスケールの天体や天文現象についての研究を、実験や論文輪読などを通して体験することを目的としています。装置開発の現場をリモートで体験するユニークな体験学習もありました。



参加者集合写真



集中講義

体験学習

最後に行われたアンケートでは、「オンライン開催でも不自由なく講義を聞くことができた」「新たな発見があった」「今後の進路の参考にしたい」など、前向きな感想



オンライン施設見学

をたくさんいただきました。来年は対面で実施できることを願っています。

\*伊王野大介(国立天文台 アルマプロジェクト/総研大 物理科学研究科天文科学専攻)、早野裕(国立天文台 先端技術センター/総研大 物理科学研究科天文科学専攻)

【天文科学専攻】

## Awards

### ■ 本島修 名誉教授 フランス大統領からレジオン・ドヌール勲章シュベリエが授与

#### 【授賞理由】

2021年4月13日(火)核融合エネルギー開発に対する先生の長年のご功績、とりわけ2010年から2015年にわたりITER(イーター)の機構長としてITER建設に多大な貢献をされたことなどが認められ受賞となった。(引用:文部科学広報 第253号 2020年12月)

#### ■ プレスリリース記事:

<https://www.nifs.ac.jp/press/210414.html>



### ■ 機能分子科学専攻 伊澤誠一郎 助教 第18回応用物理学会有機分子・バイオエレクトロニクス分科会奨励賞を受賞

2021年3月、物質分子科学研究領域の伊澤誠一郎助教が「有機半導体界面での光電変換機能の開拓」の業績で第18回有機分子・バイオエレクトロニクス分科会奨励賞を受賞しました。

※本賞は、有機分子エレクトロニクスおよびバイオエレクトロニクス分野の進歩向上に貢献すると期待

される優れた若手研究者に対して、応用物理学会有機分子・バイオエレクトロニクス分科会より授与されます。

[https://www.ims.ac.jp/news/2021/03/04\\_4912.html](https://www.ims.ac.jp/news/2021/03/04_4912.html)



### ■ 機能分子科学専攻 伊澤誠一郎 助教 令和2年度コニカミノルタ画像科学奨励賞を受賞

2021年3月1日(月)物質分子科学研究領域の伊澤誠一郎助教が「低エネルギー光利用のための新原理フォトンアップコンバージョン」の研究で令和2年度コニカミノルタ画像科学奨励賞を受賞しました。

※本賞は、様々な研究分野における「光と画像」に関わる、SDGsの課題解決に寄与する斬新な発想による挑戦的な研究について、コニカミノルタ科学技術振興財団より授与されます。

[https://www.ims.ac.jp/news/2021/03/04\\_4911.html](https://www.ims.ac.jp/news/2021/03/04_4911.html)



## ■ 機能分子科学専攻 南谷英美 准教授 第2回米沢富美子記念賞を受賞

2020年12月、理論・計算分子科学研究領域の南谷英美准教授が「ナノスケール磁性およびフォノンの計算物質科学研究」の業績で第2回米沢富美子記念賞を受賞しました。

※日本物理学会では、故米沢富美子慶應義塾大学名誉教授（第52期日本物理学会長）の業績を記念

し、女性会員の物理学分野における活動を讃え、奨励するため、米沢富美子記念賞を2019年に設立しました。

[https://www.ims.ac.jp/news/2021/03/15\\_4919.html](https://www.ims.ac.jp/news/2021/03/15_4919.html)



## Press Release

2021.03.24

### ウンチは宝の山：生態学研究の新手法「糞プロテオミクス分析」

蔦谷匠<sup>1,2</sup>, Meaghan Mackie<sup>3</sup>, 澤藤りかい<sup>1</sup>, 宮部貴子<sup>4</sup>, Jesper V. Olsen<sup>3</sup>, Enrico Cappellini<sup>3</sup>

<sup>1</sup>総合研究大学院大学 <sup>2</sup>海洋研究開発機構生物地球化学センター <sup>3</sup>University of Copenhagen <sup>4</sup>京都大学



#### 【研究概要】

動物の糞にさまざまな分析を実施することで、その糞をした個体の生態や進化を調べることが出来ます。野生動物の研究では、糞に含まれる未消化の食物、DNA、ホルモン、元素などの分析が行われてきました。しかし、糞に含まれるタンパク質はこれまでほとんど研究対象になりませんでした。タンパク質は身体を構成する部品であるだけでなく、遺伝情報も反映しています。そのため、糞に含まれるタンパク質を網羅的に分析すれば、ほかの分子からはわからなかった新規な情報を得られる可能性があります。私たちは、日本とデンマークの共同研究により、哺乳類の糞に含まれるタンパク質の分析という

新しい方法（糞プロテオミクス分析）が生態学に新たな知見をもたらすことを示しました。飼育下のニホンザル（*Macaca fuscata*）をモデルにして、異なる発達段階にある個体から得られた糞をプロテオミクス分析し、ニホンザル、食物、腸内細菌のタンパク質の構成を調べました。その結果、糞に含まれるタンパク質からは、授乳・離乳による食事内容の変化、摂取した食物の分類群と部位、腸内の生理状態に関する直接的な証拠が得られることがわかりました。これらの一部は、従来の手法では調べるのが難しかった生命現象です。絶滅の危機に瀕している野生の哺乳類についても、糞プロテオミクス分析を实



施することで、その食性や生理状態を迅速かつ簡便に把握できると期待されます。

#### 【論文情報】

- ・ 掲載誌：Molecular Ecology Resources
- ・ 掲載日：2021年3月15日
- ・ 論文タイトル：Fecal proteomics as a novel method to study mammalian behavior and physiology
- ・ 著者：葛谷 匠（総合研究大学院大学・先導科学研究科・助教、海洋研究開発機構・生物地球化学センター・外来研究員）Meaghan Mackie（デンマーク・University of Copenhagen・Globe Institute・研究員）澤藤 りかい（総合研

究大学院大学・先導科学研究科・日本学術振興会特別研究員）宮部 貴子（京都大学・霊長類研究所・助教）Jesper V. Olsen（デンマーク・University of Copenhagen・Center for Protein Research・教授）Enrico Cappellini（デンマーク・University of Copenhagen・Globe Institute・准教授）

- ・ DOI: 10.1111/1755-0998.13380  
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/1755-0998.13380>

【詳細はこちら】

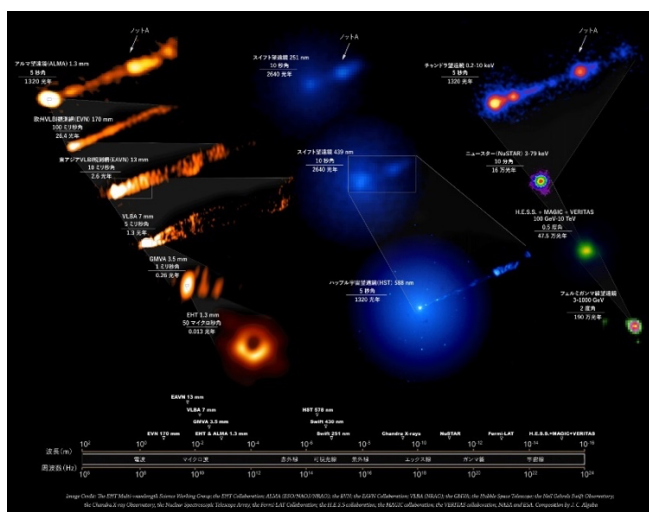
<https://www.soken.ac.jp/news/6964/>



2021.04.14

## 多波長同時観測でさぐる M87 巨大ブラックホールの活動性と周辺構造 —地上・宇宙の望遠鏡が一致団結—

Event Horizon Telescope Science Multi-Wavelength Science Working Group et al.



M87 の中心にある巨大ブラックホールのさまざまな波長の電磁波での観測画像。使用した望遠鏡により観測波長が異なり、また解像度（視力）も様々なため見えているスケールも異なる。

Credit: The EHT Multi-wavelength Science Working Group; the EHT Collaboration; ALMA (ESO/NAOJ/NRAO); the EVN; the EAVN Collaboration; VLBA (NRAO); the GMVA; the Hubble Space Telescope; the Neil Gehrels Swift Observatory; the Chandra X-ray Observatory; the Nuclear Spectroscopic Telescope Array; the Fermi-LAT Collaboration; the H.E.S.S collaboration; the MAGIC collaboration; the VERITAS collaboration; NASA and ESA.  
Composition by J. C. Alga.

#### 【研究概要】

2019年4月、イベント・ホライズン・テレスコープ (EHT)国際チームは、楕円銀河 M87 の中心にある巨大ブラックホールの撮影画像を公開しまし

た。EHT 観測が行われた時期（2017年4月）に合わせて、地上・宇宙にある様々な波長の望遠鏡（電波、可視光線、紫外線、X線、ガンマ線）により M87 の巨大ブラックホールの一斉合同観測が行われ

ました。今回、EHT と膨大な多波長データを統合した研究成果が発表されました。

本研究には、本学物理科学研究科天文科学専攻の学生、崔 玉竹さんも参加しています。

#### 【論文情報】

- 掲載誌：天体物理学専門誌「アストロフィジカル・ジャーナル・レターズ」
- 掲載日：2021年4月14日
- 論文タイトル：Broadband Multi-wavelength Properties of M87 During the 2017 Event Horizon Telescope Campaign

- 著者：Event Horizon Telescope Science Multi-Wavelength Science Working Group et al.  
※総合研究大学院大学から物理科学研究科天文科学専攻の学生、崔 玉竹さんも参加
- DOI: 10.3847/2041-8213/abef71
- URL:  
<https://iopscience.iop.org/article/10.3847/2041-8213/abef71>

#### 【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/news/7004/index.html>



## 研究助成学生の研究紹介

SOKENDAI 研究派遣プログラム、研究論文助成事業に採択された学生の研究概要を順次本学ホームページに紹介しています。

<https://www.soken.ac.jp/education/rintro/ri-grantedstd/>



#### ■2020年度（採択）登録情報

事業種別	専攻・氏名	タイトル
研究論文助成	生命共生体進化学専攻 坂本 貴洋	オスとメスで異なる選択が働くことによる新たな性決定遺伝子の定着
研究論文助成	生理科学専攻 Nguyen Thi Hong Dung	Identification of amino acids involved in monoterpene actions on transient receptor potential (TRP) channels

## Media

#### ■ 岐阜新聞 朝刊

【書籍タイトル】中赤外線を安定発生-核融研、赤外光源の開発成功-環境や医療で応用

【掲載】核融合科学専攻 上原 日和 助教

【日時】2021年3月19日（金）



## ■ 京都新聞 朝刊

【記事タイトル】疫病に立ち向かう精神力、地域の絆という文化による免疫力

【掲載】比較文化学専攻 韓 敏 教授

【日時】2021年1月1日（金）

## ■ 毎日新聞 夕刊

【記事タイトル】アズマリ音楽超えた「うた」『エチオピア高原の吟遊詩人』

【掲載】地域文化学専攻 川瀬 慈 准教授

【日時】2021年1月8日（金）

## ■ 檸檬新報

【記事タイトル】3蜜の意義をみつめなおす”触”の大博覧会

【掲載】比較文化学専攻 広瀬 浩二郎 准教授

【日時】2021年1月14日（木）

## ■ 朝日新聞 GLOBE「World Now」

【記事タイトル】素顔を隠したヒーローに魅せられる私たち、なぜ 世界中の仮面を知る博物館長に聞いた

【掲載】比較文化学専攻 吉田 憲司 教授

【日時】2021年2月6日（土）

【URL】<https://globe.asahi.com/article/14142429>

## ■ 朝日新聞 朝刊 「ひと」

【記事タイトル】コロナ禍のなかで「触る」を問う国立民族学博物館准教授

【掲載】比較文化学専攻 広瀬 浩二郎 准教授

【日時】2021年2月10日（水）

【URL】<https://www.asahi.com/articles/DA3S14795145.html>

## ■ 沖縄タイムス(3/27)、琉球新報(3/28)、愛媛新聞(3/28)

【記事タイトル】ヒップホップ・モンゴリア韻がつむぐ人類学

【掲載】地域文化学専攻 島村 一平 准教授

【日時】2021年3月27日（土）、28日（日）

## ■ See Sew Archives 刺しゅうが教えてくれたこと

【記事タイトル】イメージを払拭した、インド西部の朗らかな刺しゅう。 国立民族学博物館

【掲載】比較文化学専攻 上羽 陽子 准教授

【日時】2021年4月1日（木）

【URL】<https://sewco.brother.co.jp/features/world/seesew/>

## ■ 京都新聞 朝刊

【記事タイトル】障害/健常 境界はあるのか

【掲載】比較文化学専攻 広瀬 浩二郎 准教授

【日時】2021年4月5日（月）

# Event Calendar

日程	イベント名称	実施専攻・基盤機関
2021/3/4-5/18	特別展「復興を支える地域の文化—3.11 から 10 年」 <a href="https://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20210304hukkou/index">https://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20210304hukkou/index</a>	国立民族学博物館 日高真吾・教授
2021/5/14	大学院入試説明会 <a href="https://soken.nifs.ac.jp/archives/admissions_info/admissions_info-6925-2">https://soken.nifs.ac.jp/archives/admissions_info/admissions_info-6925-2</a>	核融合科学専攻
2021/5/18	前期専攻説明会 ※オンライン <a href="http://www.esb.soken.ac.jp/admissions/briefing_detail.html">http://www.esb.soken.ac.jp/admissions/briefing_detail.html</a>	生命共生体進化学専攻
2021/5/22	大学院一日体験会 ※オンライン <a href="https://www.soken.ac.jp/event/6984/">https://www.soken.ac.jp/event/6984/</a>	国立遺伝学研究所
2021/6/5	分子科学研究所オープンキャンパス・体験入学説明会 <a href="https://sites.google.com/ims.ac.jp/sokendai/">https://sites.google.com/ims.ac.jp/sokendai/</a>	構造分子科学専攻 機能分子科学専攻
2021/6/7	前期オープンキャンパス ※オンライン <a href="http://www.esb.soken.ac.jp/admissions/open_campus_detail.html">http://www.esb.soken.ac.jp/admissions/open_campus_detail.html</a>	生命共生体進化学専攻
2021/6/11	市民公開講座 第 128 回分子科学フォーラム ※オンライン <a href="https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2021/04/06_4986.html">https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2021/04/06_4986.html</a>	構造分子科学専攻 機能分子科学専攻
2021/6/12	公開講演会『自然科学からみる歴史資料』 <a href="https://www.soken.ac.jp/event/7013/">https://www.soken.ac.jp/event/7013/</a>	日本歴史研究専攻
2021/8/23-27	2021 年度 夏の体験入学	核融合科学専攻

※原則として、総研大専攻としての行事のみを掲載します。



## ■ お知らせ

2021年4月12日に、田中優子氏（前法政大学総長）と長谷川眞理子学長との対談動画第一弾を掲載しました。江戸時代から現代にいたるまで学問が社会に果たしてきた役割について、お話いただいています。全部で3回にわけて配信予定です。

当該動画は、本学の研究者と、各界でご活躍される方々との対談を配信する SOKENDAI TALKS 「知への欲求」というシリーズの第一弾です。今後も継続して配信していく予定ですので、ぜひチャンネル登録をお願いいたします。

【広報社会連携係】



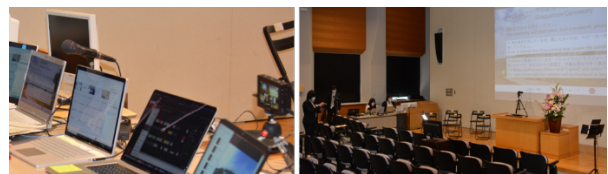
<https://www.soken.ac.jp/news/7001/>



## ■ 編集後記

未だ新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立ちませんが、制約のある中でも楽しく交流を行えるよう、イベントのオンライン化などをすすめております。3月末の学位記授与式および4月初めの入学式のオンライン配信は、そうした試みのひとつです。

まだできることがあるのではないかと自問しつつ、いろいろな工夫を考えていきたいと思っております。とはいえ、やはり交流は対面に越したことはなく、



1日も早く安全で安心した生活が送れることを願っております。

(広報社会連携係 T.S.)

## 総研大基金によるご支援について

令和2年度4月、本学は戦略的な運営を支える財政基盤を強化すべく、総研大基金を創設しました。この基金を活用して、国際交流の支援、学生支援等を推進して参ります。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。

※ 寄附目的に「若手研究者等の支援（SOKENDAI 研究等支援基金）」追加しました。ご支援のほどよろしくお願いいたします。

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/donation/>



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻(基盤機関)との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニュースレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

2021年5月発行

編集・発行

国立大学法人 総合研究大学院大学  
総合企画課広報社会連携係  
神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

TEL 046-858-1629

FAX 046-858-1648

Email [kouhou1\(at\)ml.soken.ac.jp](mailto:kouhou1@ml.soken.ac.jp)

※(at)は@に変換してください。

©2021 SOKENDAI